

特集

札幌の玉葱「札幌黄」

煮てよし、焼いてよし、

食卓に欠かせない万能食材の一つ、玉葱。

玉葱栽培発祥の地、

札幌で生まれた玉葱が「札幌黄」です。

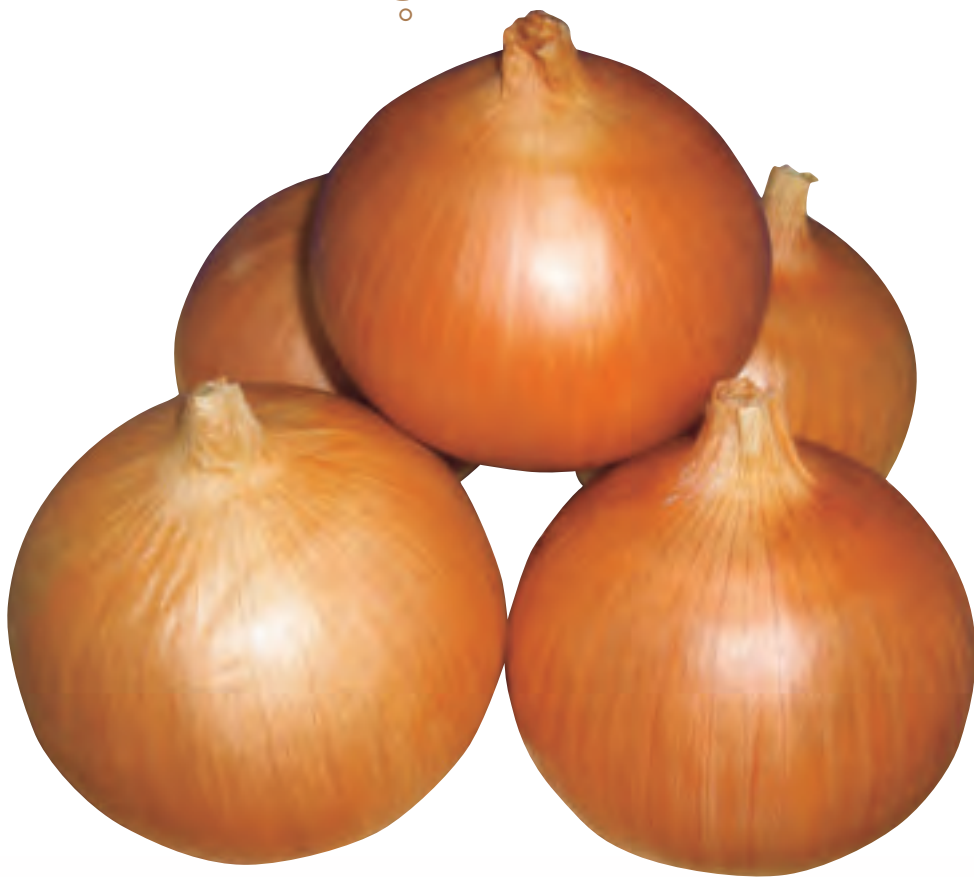
時代の流れと共に生産量が減少し、

一時期は、その存続すら危ぶまれていました。

しかし現在その価値が見直され、

再び人気が高まっています。

未来に残したい伝統野菜「札幌黄」。



「幻の玉葱」

札幌で生まれた玉葱「札幌黄」。肉厚で柔らかく、味は甘さと辛さのバランスが良く、熱を加えるといっそう甘味が増すのが特徴です。札幌黄は日本の玉葱の先駆けとして、古くから人々に親しまれてきました。

いつしか「幻の玉葱」と呼ばれるようになった札幌黄。形や大きさが不揃いになりがちで病気にも弱く栽培が難しいことから、生産農家が減り、店頭で見かける機会がほとんどなくなってしまうのがその由縁です。

発祥の地、札幌の開拓

玉葱栽培の発祥の地である札幌。現在の札幌市は、かつての「札幌村」「白石村」「篠路村」といった、いくつかの村が一つになり誕生しました。

慶応二年から大友亀太郎により開拓された札幌村（現在の東区南西部）は、札幌の開拓地の中でも最も古い歴史がある地域といわれています。

大友亀太郎は、現在の南三条東二丁目からまっすぐ北へ伸び、北六条東二丁目から北



▲「わが国の玉葱栽培はこの地にはじまる」札幌村郷土記念館に立つ、記念碑

東へ曲がり北十三条東十六丁目ところで伏古川に注ぐ、大友掘を作りました。田畑の用水路、排水路、開拓者の飲料水のための掘でしたが、運送路としても使用され札幌付近の開拓に大きな役割を果たしました。大友掘は現在も南三条から北六条付近までは創成川として残っています。

札幌村は開拓使や札幌農学校の指導を受け、多くの外来作物の導入が行なわれました。その中で定着した作物の一つが玉葱だったのです。



▲札幌村の開拓を進めた大友亀太郎

日本初の玉葱栽培

北海道に玉葱が入ってきたのは明治四年、開拓使がアメリカから輸入した種子を札幌官園（現在の北区北六条西六丁目付近）で試作したのが始まりとされています。

最も古くから入植が進み、札幌農学校からも比較的近かった札幌村（現在の東区南西部）では、多くの農家が玉葱栽培を始めました。これが日本の玉葱栽培の始まりです。当時は、ほとんどが自家用として消費されていました。

明治十三年には、「玉葱栽培の祖」と呼ばれる中村磯吉が一ヘクタールほどを栽培し、良品の収穫に成功したことで初めて東京での販売を試みました。しかし、まだ日本人に馴染みのない玉葱は見向きもされず、試みは失敗に終わりました。



▲アメリカから伝わった玉葱の種



▲玉葱栽培を始めた当初に使用していた農機具。

その後、販売方法の模索など試行錯誤の末、ようやく玉葱は「商品」としての第一歩を踏み出すことになりました。

当時の札幌村では、リンゴやブドウなどの果樹栽培が盛んに行なわれていましたが、病害虫に弱いという欠点がありました。玉葱の知名度が上がり人々に食べられるようになったことが、玉葱栽培が広がり定着するきっかけとなったのです。

「札幌黄」の誕生と衰退

「札幌黄」という名をいつ、誰が最初に使用したのかは、定かではありません。しかし、歴史上に確実にその名を残しています。

もともとはアメリカ産の「イエロー・グロブ・ダンバース」という玉葱が原種で、当初は味も形も悪く保存もきまませんでした。それを農家自ら改良を行ない、優良な品種として誕生したのが「札幌黄」です。

札幌村に始まった玉葱栽培が次第に苗穂村、丘珠村などの近村に広がり、明治三十年代には、札幌地区は玉葱の一大産地となりました。札幌黄は札幌の特産品として全国のみならず、ロシアやフィリピンなど海外にも広く輸出され、各地で人気を博しました。札幌産の玉葱といえば「札幌黄」。その常識は「F1種」の作付けによって変化が起り始めます。栽培が難しいといわれる札幌黄と比べ、貯蔵性や病気への耐性、収量などが優れている「F1種」への移行により、札幌黄の作付けは急激に減少していきました。

伝統を守り復活へ

先人達が挑戦した玉葱栽培によってもた

らされた「札幌黄」。幻の玉葱と呼ばれ、市場でその姿を見ることはほとんどなくなりました。また、札幌市は人口増加による宅地化が進み、玉葱の生産自体も最盛期に比べると大きく減少してしまっています。

それでも札幌黄がなんとか生き残ってこれたのは、「絶やしてはならない」という伝統を受け継ぐ農家の努力によるものです。近年、その努力は実を結び、札幌黄は札幌の伝統野菜として再び脚光を浴び始めています。札幌黄は復活に向けて動き出しました。



▲お話を伺った、札幌村郷土記念館 事務局 玉井 晶子さん



札幌村郷土記念館

〒065-0013
札幌市東区北13条東16丁目
TEL : 011-782-2294

味の箱舟に認定

平成十九年、札幌黄は食の世界遺産ともいわれる「味の箱舟」に登録されました。

「味の箱舟」プロジェクトは、スローフード協会の主要な取り組みの一つ。食材を世界共通の基準で認定し、生産や販売を支援することによって、地域における食の多様性を守り育てようという運動です。

「味の箱舟」への登録は札幌の歴史を代表する野菜である「札幌黄」復活への取り組みの大きな後押しとなりました。



▼今年も収穫時期を迎え、東区丘珠にある玉葱選果センターも連日選果作業を行なっています。



札幌黄の現在

現在札幌黄は、三十一戸の農家によって生産されています。一時期は十戸程度にまで減少しましたが、「札幌」と冠の付く玉葱を復活させたいという想いから、再び札幌黄栽培に乗り出す生産者が少しずつ増えています。しかし、栽培の難しさは相変わらずで、他の玉葱に比べて消費者が手に取る機会は多くありません。JAさつぼろでは、JAまつりや野菜の直売イベントなどで積極的に販売し、札幌黄のPR活動を行なっています。最近では、テレビや新聞などに取り上げられることも多く、札幌黄を使った料理を提供するレストラン等も増えるなど注目を集めています。札幌を代表するブランド野菜として、さらなる飛躍が期待されています。

美味しい玉葱の選び方

外皮が乾燥している玉葱は、茶色に乾燥していて、つやがあり、芽や根が出ていないものを選びましょう。芽や根が出ているものは、見た目も良くありませんが、栄養素がその成長に使われているので、味も落ちています。また、持ったときにずしりと重く、硬く締まっている物は水分量が多く、新鮮です。玉葱は上の方から痛んでくるので、頭の部分を軽くおしてへこんだりすることがないか確かめましょう。

玉葱は長期保存がきく野菜です。湿気を嫌いますので、風通しの良い冷暗所で保存しましょう。



平成27年度「1統括支店1協同活動」 北札幌地区

みんなで植えた「札幌黄」できました！

丘珠小学校全校児童が収穫体験



▲ついに収穫時期を迎えた「札幌黄」。

9月8日（火）、北札幌統括支店は、丘珠小学校全校児童300名を招き、5月に苗の植え付けを行なった「札幌黄」の収穫体験を行ないました。

丘珠小学校は、すぐ近くに畑がある環境ではあるものの、ほとんどの児童が玉葱の収穫は初体験。畑に入り、大きく育った玉葱を見た児童からは驚きと喜びの大歓声があがりました。また、「一定の間隔で苗を植えたはずが、ところどころ隙間が出来ているのは、病気などで育たなかった玉葱があるから」という説明を受けた児童は、作物を育てる難しさを学んだようでした。

作業開始の合図と共に全校児童が一斉に札幌黄に手を伸ばし、1人10個以上を収穫。あっという間に持ってきた袋は満杯になり、重そうに抱える姿が見られました。作業を終えた児童は、「おいしそうな玉葱ができた。思っていたよりも大きかった」と満面の笑みを浮かべていました。

収穫した札幌黄は児童が自宅に持ち帰り味わう他、給食にも使用される予定です。



▲テレビの取材も!JAさっぽろと「札幌黄」をPRする良い機会になりました。



5月の定植作業の様子

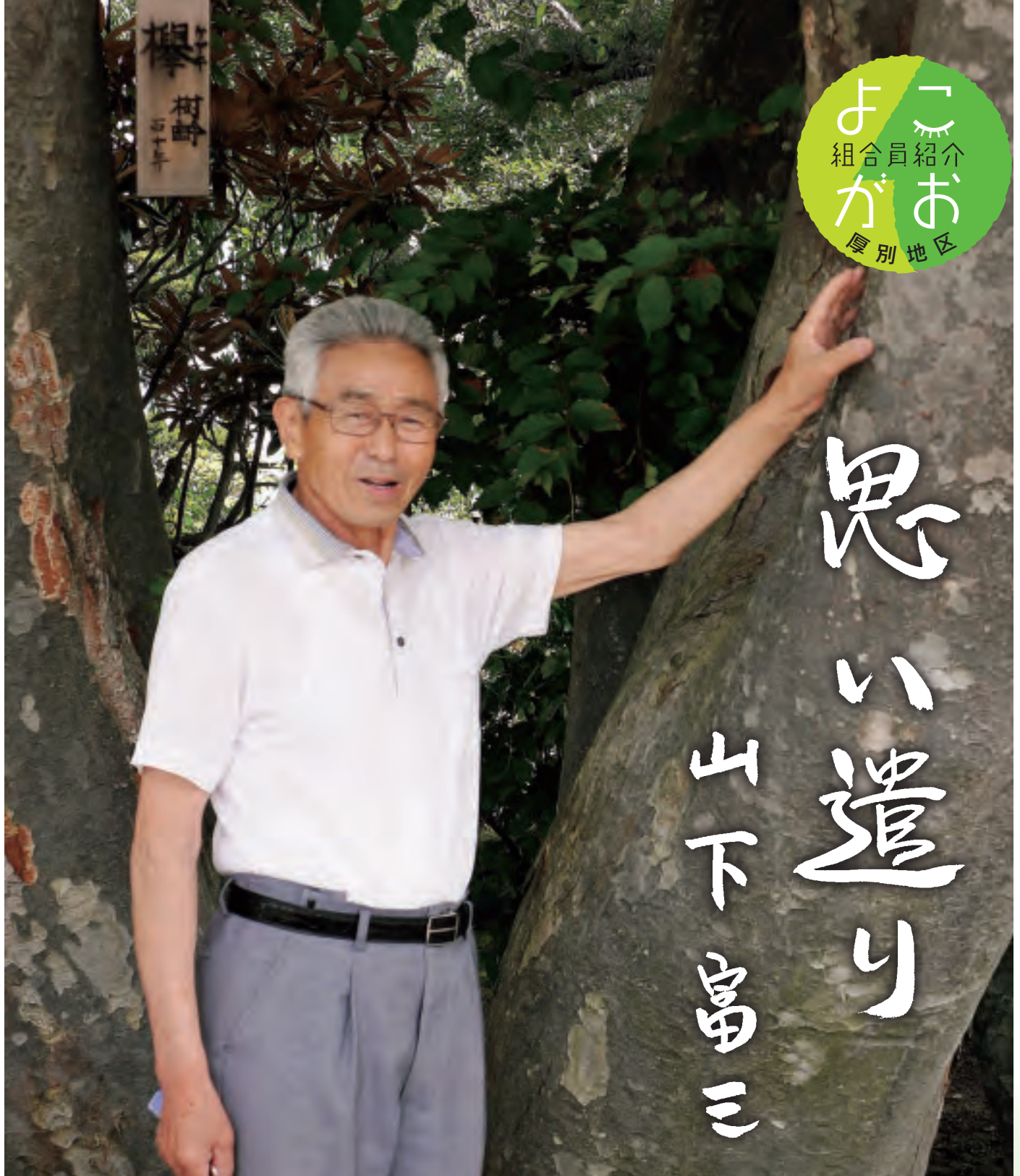


たくさん収穫できました！





思い遣り 山下富三



仕事の合間こでできること

「毎日家の前を通る人が、この木を触っていくんだよ。何か力をもらっているのかもしれないね」

庭先にそびえ立つ榿の大木を見上げながら話すのは、趣味で多くの木工品を作っている山下富三さん。

先代が生まれた時に植えられたという榿の木は、樹齢百十年を数え、時代の流れと共に移り変わる山下家を見守り続けてきた。山下さんがこの榿の木から作り上げた作品も少なくない。落とすときに使い道を家族で話し合ったという太い枝は、傘立てに形を変え、玄関で訪れる人を出迎えている。

かつては農業を営んでいた山下さん。青年部員として活動していた頃のことを懐かしそつに振り返る。

「だいぶ昔の話になるね。当時は、農協店舗の当直当番があって、青年部員も職員と一緒に寝泊りしていたんだよ。イモや葉物野菜、米を作っていたが、

木の温もりに触れながら

頭の中で想像し

作品として形に残す

夢中になれる大切な時間



組合員紹介

流通センターの開発に伴い昭和三十九年には稲作、昭和五十年には畑作から離れることとなった。

「昔はこのあたりも畑や水田がたくさんあったけど、副都心化でほとんどなくなっちゃったよ。札幌市の米農家もだいぶ少なくなったよね」

市街化され、便利になった一方で、畑や水田が減っていく現状に少し寂しそうな表情を浮かべた。

農業と同じく家業として営んでいたのが、たばこやアイスクリームなどを販売する「山下商店」。現在はコンビニエンスストアに形を変え、息子さんが引き継いでいる。

「私が店を手伝い始めたのが昭和四十年頃。その頃はまだ農作業もあったし、店も定休日なんてなかったからね。旅行はもちろん、子どもの運動会にも行けなかったなあ」

店番をしながらでもできる趣味、束の間の憩いの時間を求めて始めたのが木工だった。

幼い頃から慣れ親しむ

数十年、数百年を生きてきた木という素材に山下さんが手を加えることで新たな命を吹き込む。作品は、ペン立てや木槌などの小物から、和筆筒や机などの大きな物まで様々。木目が作り出す表情はどれも美しく温もりを感じさせる。作品が完成するまで早くても二週間、季節をまたぐほど時間の掛かるものもあるという。同じ形でも、木目の違いから一つとして同じ作品は存在しないのが木工品の魅力。
「べつしたら木目が活きるかを考えながら

ら作業するのが面白いんだよ」

幼い頃から木工は山下さんにとつて身近な存在。大工をしていた伯父に付いて行つては、ノミで穴を掘つて遊んでいたと笑う。木工に使う工具の使い方は知らず知らずのうちに身に着けていた。また、作品のデザインを考える上で、幼い頃の記憶が手本となることも多い。

並べられた作品の中で「一目を引く茅葺屋根の水車。秋に薄を取りに行き、茅葺を一つ一つ編み上げるところから作り上げたこの作品は、たくさん作った中でも大作の一つだという。」

「私の子どもの頃は、近くに水車がたくさんあったからね。記憶を呼び起こし、思い出しながら作っていくんだよ」

家族の喜ぶ顔が見たい

作ったものを人に見せるのは苦手だと話す山下さん。作品のほとんどはひとりごとが多い。釘を一つも使わずに作りあげたという菓箱は奥様からの要望。
「同じものを七つも作ったのに、妻が友達に配ってしまつて、もう一つしか残っていないんだよ」

菓以外にも小物を入れるのに最適な木箱は、近所でも大人気。「好評だったのよ」と話す奥様の隣で山下さんも思わず照れ笑いを浮かべる。

自宅の二階には、奥様の趣味がお茶だったことから茶室が設けられている。空間に溶け込む囲炉裏の炉縁も木地縁塗縁の二種類を手作り。

「厚別支店にある茶室を参考に作つたんだよ。一年に一回くらいは十人くらいの人を集めてお茶会を開いているよ。」

最近はお茶よりもお酒を飲むことの方が多い気がするけどね(笑)

茶室は今も家族友人達の憩いの場だ。夏の間は忙しく、ほとんど作品作りはできないという。

「秋になって日が短くなると作り始めるんだ。夏は子どもや孫からの注文が入れば作るくらいかな」

昨年の夏には「注文」を受けて作った棚が好評だったと微笑む。

家族のために作る世界にたった一つの作品は、山下さんの感謝の気持ち。長年木工を続けてきたが本格的に作品として残すようになったのは、店を息子さんに引き継いでから。趣味に注ぐ時間を持つのも家族の理解と協力があるからこそだと感じている。

「好きなことができて家族には本当に感謝しているよ」

次は何を作ろうか

今年も短い夏が終わり、札幌にも秋が訪れた。秋は山下さんの創作意欲が湧き出す季節。

自宅の横には、木工のために自身で作りに上げたという作業小屋が立ち、中に入ると、ふわっと木の香りに包まれる。木片を積みあげ、必要な工具が所狭しと並び、山下さんだけの秘密基地のような場所。

作品作りを始めると、ここで過ごす時間が長くなる。

近年、日曜大工の流行もあり、個人でも色々な木材が簡単に手に入るようになった。山下さんもホームセンターで材料を調達することが多いと



▲ 鴨の枝は傘立てとなつて存在感を放つ



▲ 水車など作品の一部。全て山下さんのオリジナル。

いうが、納得のいく材料で作品を作るこだわりは譲れない。

「今年も何か作りたいと思つているけどね。なかなか気に入る材料が見つからないんだよ」

お気に入りの材料を前にして、何を作ろうかと悩むのも楽しみの一つ。作業小屋に流れる静かな時間の中で、作品作りに励む山下さんの姿が眼に浮かぶ。

お忙しいところ、取材にご協力下さいました山下さん、ありがとうございました。
(二〇一五年八月二十 取材)



平成27年度「1統括支店1協同活動」

平岸地区

8月28日(金) 文字入りリンゴ作り

平岸統括支店では、リンゴ並木での「文字入りリンゴ」を作る活動に参加協力を行ないました。

環状通りにあるリンゴ並木は、昭和52年より平岸支店青壮年部が中心となって維持管理作業を行なっています。そのうちの2本は、豊平区役所・美園りんご会・美園小学校が連携し「文字入りリンゴ」を作るためにシール貼りを行なっており、昨年から平岸支店としてもこの活動に参加しています。

シール貼り体験を行なったのは、美園小学校4年生の児童66名。リンゴにかかった新聞紙を丁寧にはがし、まだ青いリンゴにクラスごとにデザインしたシールをしっかりと貼り付けました。リンゴが真っ赤に色づく頃には、絵柄がくっきりと描き出されます。リンゴ並木で収穫したリンゴを使ったゼリーを作り、試食も行なう予定です。



▲児童と共にシール貼りを行なう青年壮部
平岸支部、高橋宣男支部長



▶越智統括支店長をはじめ、職員も参加し、児童と交流を図りました。



▲児童がデザインしたシール、上手に貼れました。

琴似地区

9月11日(金) いも掘り体験

琴似統括支店では、あづま幼稚園の年長園児90名を招き、5月に園児が植え付けを行なった、じゃがいもの収穫体験を行ないました。琴似地区の伊藤理事、山根理事をはじめ、7名の運営協力委員と職員が協力し、園児の収穫をお手伝い。

掘っても掘っても出てくるじゃがいもに園児たちは大興奮！掘り当てたイモの大きさを友達同士で比べあいながら、競うように収穫を行ないました。袋いっぱい収穫したじゃがいもは、園児ではとても持てないほど重く、その量と重さに驚きの声をあげていました。

収穫後は、採れたてのじゃがいもをじゃがバターにして試食。大きなじゃがいもを嬉しそうにほおぼる姿が印象的でした。



◀園場を提供して下さるのは、
発寒支店組合員の横田光雄さん。

「大きいのも小さいのも
全部収穫しようね」

▼収穫したじゃがいもは、園児が自宅にも持ち帰り、家族で味わいます。



▲「じゃがバターいただきま〜す！」たくさん食べてお腹いっぱい！





9月12日(土)
東経済センター

地元農産物が次々と完売! 清田マルシェ、初めての軽トラ市は大好評

清田区役所内で開催された清田マルシェの軽トラ市に、当JAから生産者9名が参加しました。清田マルシェの開催は昨年に引き続き2回目。軽トラ市は当JAとしては初めての試みのため、どの程度の品物を準備するかなど出展生産者は試行錯誤しながら準備を進めてきました。当日は、生産者毎にポップや陳列等にも工夫を凝らし販売。午前10時の販売開始と共に各ブースには消費者が殺到し、開始30分後には当地区特産であるハウレン草やトウキビは完売状態となりました。あまりの売れ行きに一度畑に戻り、追加のトウキビを収穫し販売を行なった生産者も出るほどの盛況ぶりでした。



▲軽トラの荷台から溢れるほどの農産物を用意しました。



▲きよたマルシェに参加した生産者の皆さん。

(曾我特派員)



9月9日(水)～9月11日(金)
JAさっぽろ青年部

「地元の野菜、食べてみて!」 チ・カ・ホで札幌の農産物をPR

▼生でも食べられるトウキビを試食に、その甘さに驚きの声が続出!



▲札幌の採れたて野菜を多くの人にお買い求めいただきました。

JAさっぽろ青年部(宮崎勝吉部長)では、札幌市駅前通り地下歩行空間で行なわれた「まるごと・さっぽろの農業」イベントに参加し、青年部員が生産した農産物の直売を行ないました。「札幌黄」玉葱をはじめ、清田区を中心に生産されているハウレンソウ「ポーラスター」、もぎたてのトウキビなど10種類以上の野菜を販売。試食も用意するなど、積極的にPR活動を行ないました。市街地での野菜の直売に多くの通行人が足を止め、3日間のために用意した農産物は全て完売。大盛況の催しとなりました。



9月1日(火)
しろいし友の会パークゴルフ部会

今年度最後の目帰り大会 スポーツの秋を満喫

しろいし友の会パークゴルフ部会(安藝邦雄会長)では、えべつ角山パークランドにて、第5回大会を開催しました。当日は快晴に恵まれ、9月とは思えないほど気温がどんどん上がる中、参加者は心地よい汗を流しながら思う存分プレーを楽しみました。今年度の日帰り大会はこれが最後となりますが、10月にはニセコにて一泊大会、2月には室内大会を予定しています。



(奥田特派員)

施主 吉川 悦宏 さん（丘珠支店組合員）にお話を伺いました



施設の概要

敷地面積: 1,731.04㎡
 構造規模: 木造2階建て(1棟2戸)
 全て3LDK
 延床面積: 156.72㎡(3棟)
 154.23㎡(3棟)合計6棟

土地の活用をまずは考える

長い間、東区で農業を営んでいましたが、札幌市の都市計画事業に伴いこの地区も区画整理が行なわれました。近隣には瞬間に商業施設が立ち並び、閑静な住宅地へと生まれ変わりました。今では、不動産業者を始め土地を売って欲しい等問合せも多いですが、残った土地を売るのではなく守るための活用方法を考えJAに相談しました。

不安を緩和した一言

この地区は、スーパーなどの商業施設も多く買い物は便利ですが、小学校へは2km近く離れていることがとても気になっていました。また、アパート入居者の多くは小さい子供のいる家族をイメージしていた事もあり、需要を考えると賃貸住宅の建築には消極的でした。しかし“子供の運動不足を考えると学校は程良い距離であり、子育てにも良い環境”とあえてこの場所を求めた近隣の方の一言や、“子育て世帯を対象とした市営住宅”が隣接地に建設された事もあり需要の高さを感じました。

オーナーとしてのこだわり

今回のメゾネットタイプの賃貸住宅6棟については、土地の活用をJA担当者にご相談したのをきっかけに提案を受け、家族で話し合い建築する事になりました。賃貸住宅とはいえ、自分達が住むくらいの意気込みで家族の意見を取り入れてもらいました。特に階段、玄関、水廻り等隣人の生活音が少しでも緩和されるような間取り配置と防音措置を念入りに講じています。また、冬の対策としてロードヒーティングや融雪槽の設置も検討しましたが、設置しても使用しないケースも多いと聞き、賃貸住宅としてはかなり広めに雪除け場所を確保しました。雪解け水や近年の集中豪雨を考えた排水設備の設置など出来る限りの対策を講じています。

担当者が親身になって

家族で意見を出し合って完成したアパートですが、それぞれの都合で業者との打合せに参加できないこともありましたが、しかし、JA担当者が最初から最後まで欠かさずに参加して対応いただいたので、本当に助かりました。また、入居者が決まるまではとても不安でしたが、無事に全戸入居が決まり家の灯を見てほっと胸をなでおろしています。

今後もJAさっぽろにご相談しながら、不動産の活用を考えていきたいと思っております。

JAさっぽろでは資産管理事業を通じて、組合員の皆さまのお役に立てるよう様々な提案・相談・サポートを行っております。資産活用のご相談は各支店、不動産プラザにお任せください。

伝

言

板

理事会だより

◆第五回定例理事会

平成二十七年八月二十八日(金) 午後時より本店役員会議室において第五回定例理事会が開催された。

- 監事会報告事項
- 一、 随時監査報告

● 協議事項

- 二、『パワーハラスメント防止規程』の制定および『就業規程』『準職員就業規程』の一部改正について

就業規程並びに準職員就業規程に定める職場環境を害すると判断される行為を防止するために「パワーハラスメント規程」を制定する趣旨および制定に伴い、就業規程と準職員就業規程に「パワーハラスメント」に関する条を追加する旨が詳細に説明され、可決決定。

● 報告事項

- 一、三者要請検査について
- 二、農業協同組合検査(常例検査)について
- 三、金融機関貸付実行報告
- 四、反社会的勢力認定結果報告
- 五、七月末財務状況報告
- 六、七月末組合員加入・脱退状況および未清持分譲渡報告
- 七、八月の動静と九月の予定について

(閉会・午後時五十二分)

JAさっぽろDATA

(平成27年8月末業務実績) (平成27年7月末業務実績)

組合員数	正組合員 3,991名 准組合員 26,095名 合計 30,086名	正組合員 3,985名 准組合員 25,620名 合計 29,605名
出資金残高	49億1千3百万円	48億4千8百万円
販売取扱高	7億7千7百万円	5億7千3百万円
購買供給高	5億7千9百万円	5億8百万円
貯金残高	2,748億5千2百万円	2,714億5百万円
融資残高	889億1千4百万円	885億8千9百万円
共済保有高	6,017億3千万円	6,024億7千5百万円
施設建設取扱高	4千9百万円	4千9百万円
管理受託戸数	4,099戸	4,117戸

※ 出資金残高については、処分未済持分を控除した額です。

おくやみ

下記の正組合員の方々が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

支店名	氏名	享年	月日
南	中向 岩男	95才	8/23
白石	谷村 善吉	87才	9/5
琴似	佐々木 昌平	83才	8/27
手稲	小山 達也	91才	9/2
清田	掛端 博治	83才	8/19
北札幌	橋本 悌子	88才	8/29
新琴似	一宮 啓二	79才	9/2

共済代理店仕組改訂
研修会・交流大会を開催

9月9日(水)、当JAの共済代理店を対象とした仕組改訂研修会と交流大会を開催致しました。

平成27年10月から実施される、自動車共済の仕組改訂について研修を行なったこの会には、自動車共済を取り扱う4代理店の担当者10名が参加。その後自賠責共済を取り扱う代理店の担当者(9名)も合流した交流大会には、共済連職員4名、担当職員11名が集い、相互の交流を図りました。

今後も代理店との連携を強め、組合員および地域住民への「自動車共済」「自賠責共済」の積極的な提供に努めてまいります。



▲JAと代理店の連携を強めることを決意新たにしました。

地区別懇談会のご案内

下記の日程で、地区別懇談会を開催します。組合員の皆様は、開催前にお届けする資料をご持参の上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

地区名	開催日	開会時間	会場
中央	11月16日(月)	午前9時30分	本店3階大会議室
白石			白石支店会議室
平岸		午後2時00分	平岸支店会議室
新琴似	11月17日(火)	午前9時30分	新琴似支店会議室
琴似			琴似支店会議室
篠路		午後2時00分	篠路支店会議室
手稲	11月18日(水)	午前9時30分	手稲支店会議室
南			南支店会議室
豊平		午後2時00分	清田支店会議室
厚別	11月18日(水)	午前9時30分	厚別支店会議室
北札幌			北札幌支店会議室
西町	午後2時00分	西町支店会議室	

※ 詳細は支店よりご案内させていただきます。

緊急事態に備え 普通救命講習を受講

札幌市防災協会の協力の下、98名の職員が普通救命講習を受講しました。JAさっぽろでは、全職員の受講を目標として定期的に講習会を実施しています。新規受講者の他、過去に受講した職員も積極的に参加しており、既に全体の9割以上の職員が修了しています。

講習では、止血、異物除去などの応急手当や心肺蘇生法やAEDを使用した実技講習を行ないます。札幌市内では、119番通報をして救急車が現場に到着するまで約6分。現場に居合わせた人の応急処置で救命の可能性が大きく変わるといいます。



緊急事態に備えるため、今後も継続的に講習会を行なう予定です。

◀指導を受けながら心肺蘇生法を行なう職員。胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返し行なっていました。

CS改善プログラム リーダーのスキルアップを図る

「JAバンクCS（組合員・利用者満足度）改善プログラム」の一環として、9月2日（水）、全21店舗の窓口、渉外担当者から選出したリーダー37名が参加し、「CSリーダーミーティング」を行ないました。

各支店では、顧客満足度向上を図るため、リーダーが中心となり、具体的課題の解決へ向け日々活動しています。今回のリーダーミーティングでは、リーダー同士の情報交換とスキルアップを目的に、ロールプレイ等を行ない、下半期の活動に弾みをつけました。

今後は経済部門、相談部門にも活動を広げていく予定で、JAさっぽろ一体となり、さらなる顧客満足度向上に努めてまいります。

▶支店で行なっている「改善ミーティング」のロールプレイ。支店での取り組みに活かします。



実りの秋！地産地消をPR ～サッポロさとらんど大収穫祭～

開設20周年を迎えたサッポロさとらんどで、9月19日（土）から23日（祝）の5日間にわたり「大収穫祭」が行なわれ、JAさっぽろでは農産物の直売、ゆでとうきびの販売を実施し、地産地消をPRしました。

19日、20日の2日間にはテレビ局のイベントも同時開催され、期間中大勢の来場者で賑わい、札幌の農産物をPRすることができました。



彩り鮮やかに 「さっぽろ花まつり」

8月29日（土）、30日（日）、サッポロさとらんどにて「さっぽろ花まつり」が開催され、札幌市内および近郊で生産されている切花、鉢花の販売を行ないました。

生花店には並ばないような大きなアナベル、ミナヅキなども並び、札幌市内でも様々な品種が生産されていることをPRする良い機会になりました。色とりどりの花を求め、多くの人で賑わいました。



▲普段、見慣れない品種を購入できるのも「花まつり」ならではの。

さとらんど さとらんどセンターにて、様々な講座を実施中！

ハーブ講座

ハーブの香りがする
ハンドクリーム作り

日時：10月29日（木）
午前11時～正午
定員：16人
費用：1,500円



キムチ作り講座

本格白菜・大根キムチを作ろう！

日時：11月5日（木）
午前10時～正午
定員：16人
費用：1,500円



10月21日（水）から受付開始！ この他にも様々な講座をご用意しております。申込みは、さとらんどセンターまでTELまたは直接受付ください。
【お問い合わせ】サッポロさとらんど 〒007-0880 札幌市東区丘珠町584番地2 TEL(011)787-0223

平成 27 年 10 月 31 日 (土) をもちまして
南支店、西町支店の ATM 土曜日稼働を終了させていただきます
当 J A の ATM 稼働時間は下記の通りになります。

〈平成 27 年 11 月 1 日からの ATM 稼働時間〉

店 舗	稼働日・稼働時間		
	平日	土曜	日曜・祝日
本店営業部	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	非稼働日
中央支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
南支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
川沿支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
平岸支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
月寒支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
白石支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
菊水元町支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
東白石支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
川下支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
清田支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
厚別支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
北札幌支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
丘珠支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
篠路支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
新琴似支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
屯田支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
琴似支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	
発寒支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
西町支店	8:45 ~ 18:00	非稼働日	
手稲支店	8:45 ~ 18:00	9:00 ~ 14:00	

手数料無料提携ATM

・セブン銀行 ・ローソンATM
・イーネットATM
(主な設置店:ファミリーマート、サンクス、セイコーマート)

手数料無料時間帯

平日 8:45 ~ 18:00
土曜日 9:00 ~ 14:00

※手数料無料時間帯以外は手数料 108 円がかかります。
※コンビニエンスストアの一部店舗では、ATM が設置されていない場合、手数料無料対象外 ATM が設置されている場合がございますので、ご確認の上ご利用ください。

お問い合わせ先: J A さっぽろ本店金融部 011-621-9113

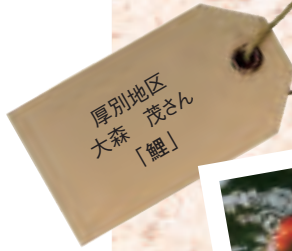
2015

虹の大樹 NO.208

虹の大樹 ● 10月号
平成27年10月10日 ● OCTOBER 2015
編集・発行 / 札幌市農業協同組合
〒060-0010 札幌市中央区北10条西24丁目1番10号 TEL011-621-1311
ホームページ <http://www.ja-sapporo.or.jp/> Eメール kouhou@ja-sapporo.or.jp



あなたの自慢 教えてください



自宅の庭で飼っている鯉です。
毎日元気に泳いでいます。
近くに人が来ると餌がもらえると思うのか、
パクパクと顔を出します。
冬場は雪が積もるので車庫の水槽へ。
今年ももうすぐお引越しです。

◆みなさまの自慢を教えてください◆

小さいお子さんやお孫さん、新婚さん、ペット、
料理、新たに家業を継いだ方、家宝など、
自慢のものを大募集!
お近くの各支店または本店 広報課まで、
お気軽にお声かけ下さい。

タイトルは、きゅうりやトマトなどに
一般的に殺菌剤で使われている
「ジマンダイセン」をアレンジしたものです。